

第32回（2022年）全国花のまちづくりコンクール 鳥山 順子氏（嬭恋村）が農林水産大臣賞を受賞

第32回全国花のまちづくりコンクールにおいて、全国応募総数694件の中より、本県から4名の受賞が決定しました。

1 本県からの受賞者

【大賞（農林水産大臣賞）】

個人部門 鳥山 順子（嬭恋村）

【優秀賞】

団体部門 伊賀野の花畑（みなかみ町）

個人部門 福田 具可（中之条町）

【入選】

個人部門 松本 茂治（館林市）

2 全国花のまちづくりコンクールの概要

このコンクールは、平成2年に開催された国際花と緑の博覧会（花の万博）の理念を継承し、花のまちづくりの発展及び花の社会性の向上を目的に、平成3年から全国各地の優れた花のまちづくりを表彰しているものです。

日本各地で通りや広場、住宅街などを花や緑で、美しく潤いのある生活環境づくりを行っている個人、民間団体、学校・保育園、企業、市町村など、花のまちづくり運動に取り組む団体等を対象としています。

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

事務局 公益財団法人 日本花の会 TEL 03(3584)6531

3 その他

今年度の表彰式は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ中止となります。

第32回（2022年）全国花のまちづくりコンクール 受賞者決定 ～花の社会性がまちをつくる～

花のまちづくりコンクール推進協議会（会長 野路國夫）は、第32回（2022年）全国花のまちづくりコンクールの各賞受賞者を、全国応募総数 694 件の中より決定しました。

【コンクール概要】

全国花のまちづくりコンクール（提唱：農林水産省及び国土交通省、主催：花のまちづくりコンクール推進協議会）は、1990年に開催された国際花と緑の博覧会の理念「自然と人間との共生」を継承し、花のまちづくりの発展及び花の社会性の向上を目的に、1991年より全国各地の優れた花のまちづくり活動を表彰しています。

【対象】

全国の「市町村」「団体」「学校」「個人」「企業」

【特徴“花の社会性”】

花は、人と人、人と社会をつなぐツールです。花が地域社会に及ぼすプラスの影響を“花の社会性”と呼んでいます。花のまちづくりは、地域の環境づくりやコミュニティづくり、人づくりに資する“花の社会性”をまちづくりに活かす活動です。

【花のまちづくりコンクール推進協議会 構成団体】

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会

【受賞者】

別紙の通り。なお、今年度の表彰式は新型コロナウイルス感染症の状況をふまえて中止します。

【お問い合わせ先】

コンクール事務局：公益財団法人日本花の会 担当：小山・武藤

〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル

TEL：03-3584-6531（武藤 080-9093-4568）FAX：03-3584-7695

JP00MB_hananokai@global.komatsu（*JPジェビ-の後ろは数字「ゼロゼロ」）

<https://www.hananokai.or.jp/city/>

第32回（2022年）全国花のまちづくりコンクール受賞者一覧

応募者数 694 件

（市町村部門 4 団体部門 422 学校129 個人部門114 企業部門 25）

花のまちづくり大賞（5件）

農林水産大臣賞	個人部門	鳥山 順子	群馬県嬭恋村
		水田 進	兵庫県洲本市
国土交通大臣賞	団体部門	野間大池公園花学校	福岡県福岡市
	個人部門	高島 孝子・直宏・千鶴	香川県多度津町
文部科学大臣賞	学校部門	牧之原市立萩間小学校	静岡県牧之原市

花のまちづくり優秀賞（12件）

市町村部門	鴻巣市	埼玉県鴻巣市
	館山市・株式会社塚原緑地研究所	千葉県館山市
団体部門	伊賀野の花畑	群馬県みなかみ町
	エコガーデンはるひ野	神奈川県川崎市
	あじさいボランティア	神奈川県相模原市
	富山市立新庄北小学校&地域団体	富山県富山市
	天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト	静岡県浜松市
	上丹生プロジェクトK	滋賀県米原市
	広棚 花の里グループ	徳島県美馬市
個人部門	福田 具可	群馬県中之条町
	佐野 誉志照・恵美子	静岡県浜松市
企業部門	セブンイレブン潮芦屋店	兵庫県芦屋市

花のまちづくり奨励賞（9件）

団体部門	高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会	富山県高岡市
	松崎町花の会	静岡県松崎町
	NPO法人にじのかけ橋	兵庫県西宮市
	下里とも子ガーデン	和歌山県那智勝浦町
学校部門	五霞町立五霞中学校	茨城県五霞町
	長岡市立桂小学校	新潟県長岡市
	掛川市立千浜小学校	静岡県掛川市
個人部門	末松 和佳子	兵庫県神戸市
	寺尾 康男・桂子	兵庫県朝来市

花のまちづくり入選 (55件)

団体部門	大湯「パンジーの会」	秋田県鹿角市	しもつけ オープンガーデンクラブ	栃木県下野市
	上中の原団地 ボランティアグループ	神奈川県相模原市	上堀駅を愛する会	富山県富山市
	前沢カンナロード実行委員会	富山県黒部市	北部花緑愛好会	富山県南砺市
	小瀬戸花いっぱいの会	静岡県静岡市	伊豆の国市商工会女性部	静岡県伊豆の国市
	緑地花壇の会	愛知県名古屋市	グルッポふじとう地域住民 サポーター さくらクラブ	愛知県春日井市
	社会福祉法人陽和福祉会 どんぐりの森	愛知県春日井市	風花待夢	愛知県豊川市
	いきいき刈谷友の会 ガーデニング部会	愛知県刈谷市	特定非営利活動法人 田原菜の花エコネットワーク	愛知県田原市
	緑花クラブK O B E	兵庫県神戸市	網干公園みどりの会	兵庫県姫路市
	名塩さくら台景観緑化クラブ	兵庫県西宮市	伊丹市フラワーリーダー同好会 8期生	兵庫県伊丹市
	寺本自治会 華の部	兵庫県伊丹市	鶉野中町花家族の会	兵庫県加西市
	田辺市神子浜町内会	和歌山県田辺市	古尾花の会	和歌山県田辺市
	岩出市まちづくり協議会 花のまちIWADE委員会	和歌山県岩出市	花てまりの会	和歌山県那智勝浦町
	ふれあいガーデン「くすな」	広島県広島市	横川第二公園園芸クラブ	広島県広島市
	金田第一町内会	福岡県北九州市	諸富花いちもんめの会	佐賀県佐賀市
学校部門	桑折町立醸芳小学校	福島県桑折町	海南市立巽小学校	和歌山県海南市
	みなべ町立高城小学校	和歌山県みなべ町	認定こども園 高見の森保育園	福岡県北九州市
個人部門	後藤 光三・圭子	秋田県大仙市	鈴木 洋一	福島県南相馬市
	松本 茂治	群馬県館林市	中西 忠義	福井県越前市
	齋藤 等・昭子	静岡県伊東市	益田 満智子	静岡県吉田町
	諏訪 早苗	兵庫県姫路市	房谷 弘之	兵庫県姫路市
	三村 雅之	兵庫県姫路市	奥川 きみ子	兵庫県西宮市
	尾花 幸雄	兵庫県加西市	苅尾 安正・希美子	兵庫県たつの市
	松浦 さつき・千春	兵庫県たつの市	太田 よしの	兵庫県香美町
	桐原 将臣	和歌山県田辺市	那須 幹夫	和歌山県田辺市

個人部門	佐々木 裕哲	和歌山県有田川町	森 千明	和歌山県上富田町
	石津 康子	福岡県北九州市	石井 康子	福岡県福岡市
企業部門	一般社団法人 御堂筋まちづくりネットワーク	大阪府大阪市	東京電機工業株式会社	兵庫県姫路市
	戸畑なかしま歯科	福岡県北九州市		

花のまちづくり努力賞（7件）				
年輪賞	団体部門	花と緑の銀行 上市支店		富山県上市町
		かわづ花の会 田中地区花壇		静岡県河津町
四つ葉賞	団体部門	社会福祉法人さつき福祉会 さつき障害者作業所		大阪府吹田市
若葉賞	市町村部門	藤枝市花と緑の課・蓮華寺サポーター		静岡県藤枝市
	団体部門	東鷹栖集落・JAたいせつ女性部		北海道旭川市
		しらかわバラの会		福島県白河市
	企業部門	有限会社豆蔵		愛知県岡崎市
<p>* 花のまちづくり努力賞：地域の花のまちづくりに協力・参画している活動を選賞します (年輪賞) 継続年数20年以上かつ平均年齢が70歳以上の団体または個人 (四つ葉賞) 福祉施設などを対象 (若葉賞) 継続年数3年未満を対象</p>				

特別賞（3件）				
シルバー賞 (入賞回数5回)	学校部門	五霞町立五霞中学校		茨城県五霞町
	個人部門	佐野 誉志照・恵美子		静岡県浜松市
		三村 雅之		兵庫県姫路市
<p>* 特別賞：当コンクールにおいて入賞回数が規定回に達した継続的な活動を特別に称えます</p>				

以上

第 32 回 (2022 年) 全国花のまちづくりコンクール

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞

「浅間山麓地域での新たな花のまちづくり」

【個人部門】鳥山 順子 (群馬県嬭恋村)

各地の別荘地域は、従来の特定期間の利用から、定住空間として価値が高まるなど、その性格が近年大きく変化しており、浅間山麓も例外ではありません。溶岩流の影響で表層土壌に乏しく、自生する植物も限定されてしまうような浅間山麓の嬭恋村地域に、ご夫妻で 2007 年から移住して庭造りを始めました。同じような課題を抱える他の休火山麓への展開が可能な土壌造りから始め、山野草とともに風景と調和がとれるよう、そこにある物があるがままに利用し、自然体で作業することを心掛けた庭づくりをしています。ガーデニングやオープンガーデンの開催は、周辺地域全体のガーデニングの可能性を高め、別荘地域の活性化につながっています。さらに、村の交流センターでの花飾りや地域イベントへの積極的な参加など、住民との緑を通じたコミュニケーションツールとして他地域にも流用可能な活動が、大変高く評価されました。



花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞

「消滅の危機を回避した集落の美しい風景」

【個人部門】水田 進 (兵庫県洲本市)

高齢化による人口減や耕作放棄地の増加で消滅の危機に瀕していた、美しく自然豊かな竹原地区を後世に残したいという思いから、会社を早期退職し、観光客など交流人口の増加を目的に 2002 年から約 5,000 m²のアジサイ園を作り始めました。山林に囲まれた美しい田んぼの風景を生かした、ユニークなアジサイ園を目指しています。春にはサクラ、花桃、夏にはアジサイと四季を通して花緑を楽しめる観光農園「あわじ花山水」として、観光客や地元の高齢者施設入居者、幼稚園児を楽しませています。活動は農園づくりに留まらず、園内を地域住民や大学生の交流拠点としても利用してもらい、花とみどりの普及活動や、特定外来生物であるナルトサワギクの除去活動、ロングトレイルイベントの開催支援、小規模水力発電など、様々な活動に取り組んでいます。幅広い世代を対象として、交流人口や関係人口、移住者の増加など地域振興に大きく貢献している活動が、大変高く評価されました。



第 32 回 (2022 年) 全国花のまちづくりコンクール

花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞

「都市の四季を彩るナチュラルスティック・ガーデン」

【団体部門】野間大池公園花学校（福岡県福岡市）

地域の象徴である野間大池公園では、池に粗大ごみが投棄されるなど環境の悪化が懸念された時期がありました。2006 年、四季を通じて花を楽しめる公園にしてごみの不法投棄を減らしたいと、町内会を中心に花壇作り活動が開始され、現在では安全快適に過ごせる貴重な都市のオアシスとして近隣に広く認知され、多くの方々に利用されています。公園を周回する約 1km の園路に沿った「香りの道」「ふるさとの庭」「水仙の道」「アジサイの道」等の花壇を、花木や多年草を中心とした植物が彩ります。ローメンテナンスでナチュラルスティックなガーデンを目指してメンバーで試行錯誤を繰り返し、植え付け時以外は無灌水で良好な状態が保たれています。活動の継続で培われた植物の管理方法に高い技術力とオリジナリティが伺えるほか、地元タウン誌や園芸誌への情報提供、地域住民や他団体への種苗の提供など、地域内外へ向けた広がりのある活動が、大変高く評価されました。

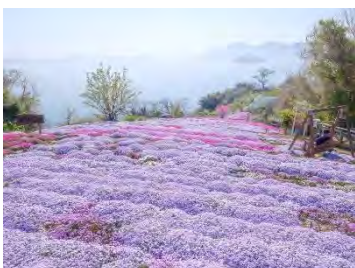


花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞

「復活を遂げた花の島、天空の花畑」

【個人部門】高島 孝子・直宏・千鶴（香川県多度津町）

周囲 3.8km の小さな志々島は、かつては漁業の傍ら仏花として使われる小菊・マーガレット・キンセンカなどの栽培が行われ、花の島と呼ばれていました。島で一人暮らしの母親・孝子さんに、昔のように花のある生活をさせてあげたいという思いから、息子の直弘さん千鶴さんご夫妻が、2014 年に花づくりを始めました。放置され荒れ果てていた約 10,000 m² の畑を整備し、年間を通して芝桜やキンセンカなど花の育成や除草作業を行い、美しい花の島を復活させました。去年は、電気・水道が通っていない花畑に観光客用のトイレを設置するため、クラウドファンディングに挑戦し寄付を集めました。これらの活動が、メディアにも取り上げられ、花のシーズンには「天空の花畑」を見ようという来訪者のために、定期船の臨時便が出るほどの人気のスポットとなっています。過疎化が進む離島という環境で、花の観光地として多くの人々を呼び込み、来訪者や居住者の増加など地域の振興に大きく貢献している活動が、大変高く評価されました。（*左下/右下/画像提供：三豊市観光交流局）



第 32 回 (2022 年) 全国花のまちづくりコンクール

花のまちづくり大賞 文部科学大臣賞

「花と心を育てる活動は『学校のじまん』」

【学校部門】 牧之原市立萩間小学校 (静岡県牧之原市)

2023 年に開校 150 年を迎える同校は、お茶の産地として知られる牧之原市内にあり、児童数は 156 名、「地域と共にある学校」であることを大事にし「花と心を育てる教育活動」を「学校のじまん」として約 50 年続けています。花は 5・6 年生による「花いっぱい委員会」を中心に、年間約 6,000 本の苗を種から育てています。花以外にも米や自然薯なども栽培し、米作りで出る藁は敷き藁や苗床に再利用するなど環境配慮に取り組むほか、年度末には活動や反省を記したノートを作り次年度に引き継いで栽培技術の向上に努めています。他にも、全児童からの花壇デザイン募集やフォトコンテストの実施、校内新聞配信など、花を楽しむ活動が児童主体で行われています。また同校の活動には地域ボランティアの方々も日常的に参加し、児童と共に花苗を地域の方々や郵便局、保育園に配るなど児童と地域が協働し地域愛を深めています。これらの児童主体で花を楽しむ活動や学校と地域が校内外で幅広く連携している活動が、大変高く評価されました。

